

聞ききたい

知りた

—鹿児島での中学高校

時代について教えて下さい。

「ガキ大将で昆虫採集などに明け暮れていました。中学から生物部に所属し、吉野の牟礼ヶ岡へ出向いていましたが、タイワンツバメシジミというチョウを本土で初めて見つけ、越冬状態の調査を行い、高校1年の時に文献にまとめました」

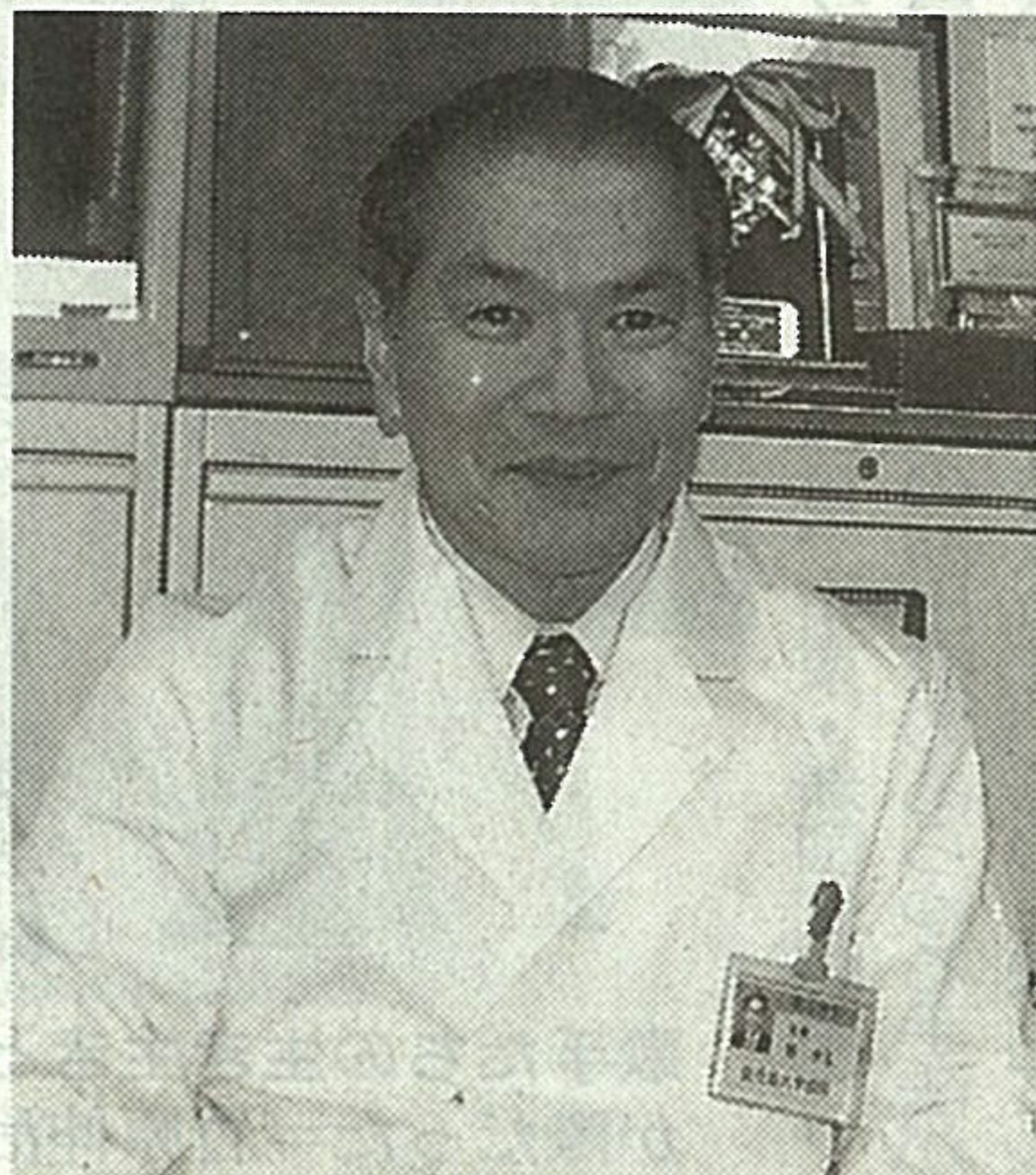
—それが最初の先生の「研究」だったのでですね。

そして医師になる夢を抱いて九州大へ進学されます。

「大学では、一度しかない学生生活を充実したものに、と考えていました。大学1年の夏に博多から砂利道の国道を自転車で帰って

医学部教授

納 光弘さん



おさめ・みつひろ 1942年鹿児島生まれ。県立甲南高校、九州大医学部卒。86年、脊髄(せきずい)疾患のHAMを発見。88年鹿児島大第3内科教授。01年鹿児島大学病院長。64歳。

すごい出会いを大切に

きたことがきっかけで、日本縦断自転車旅行を大学2年の夏に敢行しました。鹿児島市長さんをお願いして親善大使にしてもらい、鹿児島を出発して28日。無事北海道の宗谷岬に到着しました」

—そうした学生時代を経て医師になられます。

「大学を卒業して患者さんを診ることで、患者さんと一緒に頑張るって歩める臨床医学の奥深さを知り、のめり込んでいきました。臨床における一番の出会い

は、日野原重明先生(現聖路加国際病院名誉院長)との出会いです。先生の薫陶を受け、臨床をやればやる程興味深くなることを知り、とことん臨床を突き詰めていこうと感じたんです」

「その翌年にまた大きな出会いがあります。鹿児島大の第3内科の初代教授として赴任された井形昭弘先生(元鹿児島大学長・現名古屋学芸大学長)の弟子に加えて頂いたんです。第3内科は神経内科の講座で、自分の一生を神経難病の解

明にささげると決意し、臨床、研究に邁進してききました」

「01年には鹿児島大病院長に就任されますが、翌年、病に倒れられました。『極度の疲労困憊により倒れてしまいました。幸い4カ月で全快しましたが、自分が万能でないことを知りました。しかし、この病に倒れた経験が自分の人生を豊かにしました。復帰後、自分の体を大事にしながら、家族、学生、患者さんといったこれまで

「最後に学生にメッセージをお願いします」

「出会いを大切にしてください。すごい出会いが人生に何度かある。そのすごさが分かる感性を大切にしてください。出会った時に『パ』と音が鳴るような感覚。そういう時は相手も自分のことをすごいと思っているんですよ」

も大切と思っていた人たちにもっと時間を割いて恩返しをしようと思ったのです」

「それがもう一つ。『目標を定めて、それに向かって歩み続けければ、必ず目標に到達する』ということですね。ただし『目標は高いところに設定し、努力することが必須』です。一度しかない人生だから、力の限り夢を追って生きてほしい」

「その結果として、袖ふれあう身近な学生だけでなくもっと広く教育ができたかと思って、『納光弘のホームページ』を立ち上げました。Yahooなどの検



聞き手・医学部5年 西田大輔